

第 2 章



現状と課題

(1) 概況

(男 8,279 人, 女 8,607 人, 外国人 592 人)

■ 紹介

また、地域住民の安全確保と環境保全を大前提に、独立行政法人日本原子力研究開発機構をはじめ世界をリードする研究施設の進出など、長年にわたり原子力研究開発の先駆的な役割も果たしている。

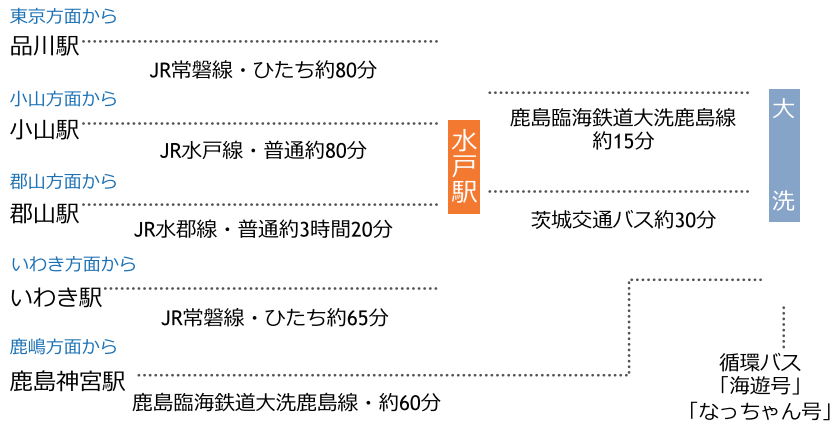


大洗町は、常磐自動車道による“たて”の繋がりと北関東自動車道による“よこ”の繋がりに
 より、飛躍的にアクセス環境が向上しました。また、昭和 60 年 3 月に就航したカーフェリーは、北海
 道（苫小牧港）と首都圏を結ぶ拠点として順調に港勢を伸ばしている。更には、茨城空港から
 は車で 40 分の距離にあり、**陸・海・空の交通結節点として重要な役割**を果たしている。

車でお越しの場合



電車でお越しの場合



フェリーをご利用の場合

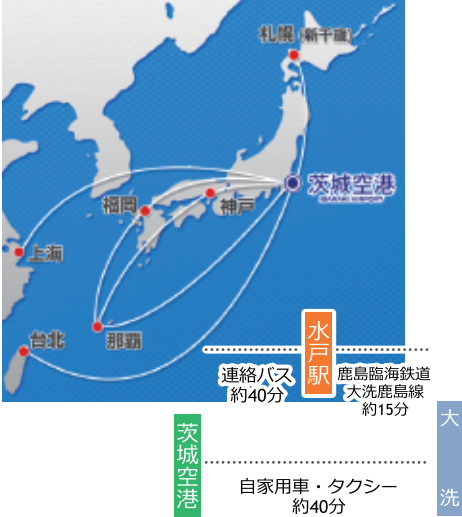
夕方便 さんみらわあ さっぽろ・ひらの
 多彩な客室と充実したパブリックスペースをご用意！
 最上階のレストランでは、水平線を眺めながら
 お食事をお楽しみください。

大洗 18:30 発 ▶ 苫小牧 13:30 着
 苫小牧 14:00 着 ◀ 大洗 18:45 発

深夜便 さんみらわあ しれこご・だいせつ
 2室のデラックスルームと全1段ベットのカジュアルルーム。
 お食事・お飲み物の自動販売機を完備した、
 カジュアルフェリーです。

大洗 01:45 発 ▶ 苫小牧 19:45 着
 苫小牧 19:45 着 ◀ 大洗 01:30 発

茨城空港をご利用の場合



（２）大洗町観光の歩み

大洗は古くからの景勝地であり、江戸時代になると花街として、また大洗磯前神社の門前街として茶屋や料理屋などが営業を始め、明治時代になるころから旅館が営まれた。水戸間の那珂川汽船の運航や常磐線の開通によって、潮湯治と呼ばれた海水浴の始まりと共に観光地となった。その後、磯節の流布や水戸間に水浜電車が開通したことにより沢山の観光客を迎える地域となり、多くの文化人が訪れたのもこの時期である。

戦後は、地域振興策として官有地に大洗ゴルフ場や海岸に竜宮城を模した大洗水族館がオープンし、幅広い観光客を受け入れる地域となった。高度経済成長とともに交通インフラの整備も進み、街の前面に展開された磯浜海水浴場、大貫海水浴場、そして大洗海水浴場は観光キャラバンの実施もあって、多くの海水浴客で賑わった。また、民宿は夏期のみ営業と合わせると100軒を超える施設が営業し、多くの宿泊客を受け入れた。

昭和40年代後半になると、商港としての大洗港の整備も本格化し、街の前面は埋め立てられ、新たな海岸道路や鉄道などインフラの整備が進められ新生観光地大洗の基盤づくりが展開された。昭和60年3月のフェリー就航、大洗鹿島線の開通により、名実共に関東を代表する観光地となった。海水浴場も港に隣接して広大な大洗サンビーチ海水浴場が誕生し、マリントワーやマリナーも整備され、水族館もアクアワールド大洗として日本屈指の水族館に生まれ変わった。その後大型の商業施設や辛子明太子のテーマパークも立地、あんこう料理や漁協直営「かあちゃんの店」など食を中心とした取組みにより通年型リゾート観光地としての地位を確立した。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により4mを越える津波が押し寄せ、街は一変し、観光地としての将来に多くの方々が不安を抱いた。そんな中、震災復興と相まってアニメの聖地として多くのファンが繰り返し訪れる新たな交流観光地として沢山の来遊者を迎えるに至った。一方、海水浴客は震災前の30%まで落ち込み、海離れが加速化している。復興のシンボルとしてのユニバーサルビーチセンターを核とした(ユニバーサル)ビーチスポーツやユニバーサルツーリズムの取組みが動き始めている。更には、大洗磯前神社や神磯鳥居の人气が高く特に海外からの多くの観光客を魅了している。

(3) 大洗町観光の変遷

	明治～第二次 世界大戦	第二次 世界大戦後～ 1960年代	1970年代～ 1980年代	1990年代 ～2011年	2011年 以降
訪 問 目 的	潮湯治				
	別荘滞在				
	海水浴				
	大洗磯前神社参り				
		水族館			
		保養所			
		ゴルフ			
		遠足			
			サーフィン		
				ショッピング	
				食	
				サブカルチャー	聖地巡礼

西暦	主な出来事
856年	・大洗磯前神社の創建
1417年	・真言宗西光院を建立
1594年	・太閤検地により鹿島郡から茨城郡に変画（元禄年間に再び鹿島郡に）
1602年	・宮田・大貫の2か村が水戸藩領、成田・神山の2か村は穴戸藩領になる
1645年	・成田・神山の2か村は幕府領を経て、陸奥守山藩の飛地領となる
1674年	・徳川光圀が久慈郡久米村より願入寺を現在地に招来
1690年	・徳川光圀が大洗磯前神社の社殿を再建
1730年	・徳川綱條が大洗磯前神社を現在地に移す
1844年	・徳川斉昭により祝町海岸にお台場が設置される
1889年	・市町村制施行により磯浜町、大貫村、夏海村が成立
1902年	・磯浜町に県立水産試験場が設置される
1922年	・浜田（水戸市）から磯浜（大洗町）間に水浜電車が開通
1952年	・茨城県大洗水族館オープン
1954年	・磯浜町と大貫町が合併し大洗町となる
1954年	・大洗ゴルフ場開設
1955年	・旭村の一部を編入合併
1961年	・大洗港（漁港部分）起工式
1965年	・日本原子力研究所大洗研究所起工式
1970年	・大洗子供の国（水族館・プール）完成
1979年	・大洗港重要港湾に指定される。大洗サイクリングターミナルが完成
1982年	・磯浜・大貫海水浴場新浜へ移設。大洗文化センター完成
1985年	・大洗鹿島線開通。大洗～北海道間にカーフェリー就航
1988年	・大洗マリントワーオープン。大洗海浜公園完成。
1992年	・大洗マリーナオープン
1996年	・大洗海岸「日本の渚・百選」に認定
1999年	・大洗健康福祉センター「ゆっくら健康館」オープン
2002年	・アクアワールド・大洗（茨城県大洗水族館）リニューアルオープン
2006年	・大洗リゾートアウトレットがオープン
2008年	・関東初のみなとオアシスに認定・登録
2010年	・幕末と明治の博物館が大洗町営となって新体制でスタート ・東京かねふく めんたいパークがオープン ・漁協直営「かあちゃんの店」オープン
2011年	・東日本大震災 震度6強の地震と4.2mの大津波に襲われる ・苫小牧市、日光市、大洗町観光パートナー都市協定締結
2012年	・ガールズ&パンツアー放映

(4) 目指すべき観光大洗

・大洗町は、有史以来景勝地として多くの方々を魅了し、現在茨城県を代表する観光地として存在している。

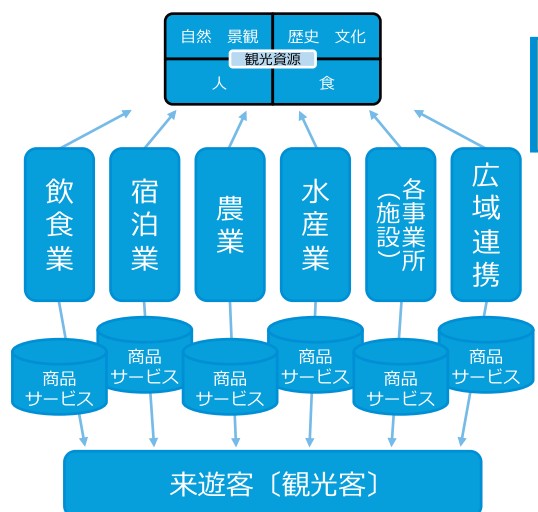
しかし、更なる茨城県観光をリードするためにも、もう一つ上の観光地づくりに取り組む必要がある。

そのためには、大洗の持つあらゆる観光資源に磨きをかけ、多様な立場の人たちと対話と連携を図り、観光まちづくりを進める必要がある。

共創による観光まちづくり

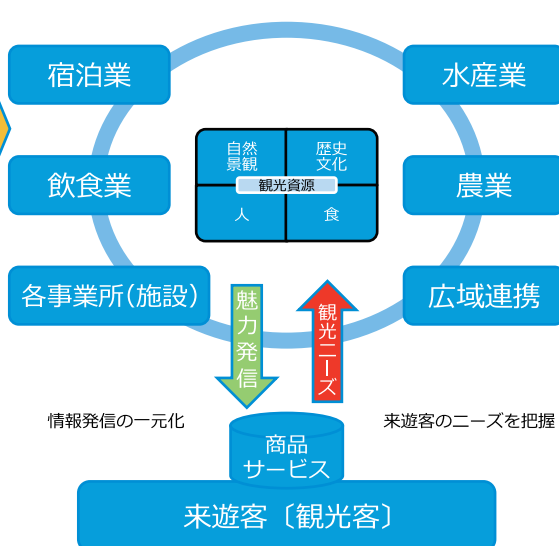
共創のイメージ

従来体制



各々の関係者が商品やサービスを提供し、来遊客はそれを受け入れる

共創体制



情報発信の一元化

来遊客のニーズを把握

大洗町の観光資源を、各ステイクホルダーが共創して観光まちづくりに取り組む

2. 大洗町観光の検証（内部環境）

・ 検証結果の整理

ストロングポイントを引き出し、ウィークポイントを克服しつつ、多様化している観光ニーズと、観光スタイルに対応するため、今後の基本方針を策定して新たな観光振興にとりくむ必要がある。

ストロングポイント(強み)

- ・ 最大マーケットである首都圏に近接
- ・ 茨城県最大の観光地（入り込み客最大）
- ・ 交通インフラ（陸、海、空）の充実環境
- ・ 港の魅力（フェリー、クルーズ船など）で集客大
- ・ アクアワールド大洗、めんたいパークなど集客施設が立地
- ・ マリーナやサンビーチなどアクティビティ性に富む
- ・ 茨城県下最大の沿岸漁業の拠点、魚介類が豊富
- ・ 海、川、湖に囲まれた自然環境（温暖な気候）
- ・ サブカルチャーファンを多く有する（関係人口が大）
- ・ 東南アジア系の居住者が多い（人口の約5%）
- ・ 来訪者へのおもてなしの対応（町民・商店会）

ウィークポイント(弱み)

- ・ 海水浴に依存した観光体系
- ・ 年間を通じた集客力の弱さ（ホスピタリティなど）
- ・ 大洗の伝統や食のプロモーションが未熟
- ・ 平日と休日の来町者の差が大きい
- ・ 夜の賑わいに欠ける（夜の街の魅力に欠ける）
- ・ 公共交通網の弱さ
- ・ 事業の担い手不足（後継者問題）
- ・ 国民の海離れ
- ・ 日帰り観光者の増加
- ・ 多様化する観光ニーズへの対応の遅れ
- ・ 関係者との連携体制構築不足
- ・ 災害時の対応